

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

## 事務局便り

No. 27

2012年4月5日

会 長 内田聖二

事務局 〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ研究室内

tel. 0742-20-3288 / fax 0742-20-3288 email: suga@cc.nara-wu.ac.jp

郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

ホームページ: <http://english.chs.nihon-u.ac.jp/segu/>

## ◆会長の交替

会長選出内規によって2011年9月に行われた会長選挙で2012年4月からの会長に内田聖二氏(奈良女子大学、2012年4月1日より奈良大学)が選出され、2011年10月15日の総会で承認されました。任期は2年間です。

会長の交代に伴い、事務局も奈良女子大学(須賀あゆみ研究室)に移りました。なお、学会ホームページは、ホームページの移管に時間を要しますので、しばらくの間は上記URL addressのままです。

## ◆新会長挨拶

会長就任のごあいさつ

会長 内田聖二

本学会の設立趣意書に次の一文があります。

「特に日々英語を教え、また英語の学問を志す私達にとって、英語の具体的な語彙や構文の特性を一つ一つ明らかにするという態度は忘れてはならない原点であります。事実これまでの英語学を底辺から支えてきたのはまさにそのような地道な研究であり、そこから私達自身も多くのことを学んできました。」

英語を対象言語とする研究分野を束ねる学会は昔前までは日本英文学会が主でしたが、英語学、言語学分野の研究者数が多くなるにつれ、「文学」ではなく「語学」をその研究の柱とする必要性が叫ばれ、1983年に日本英語学会が設立されました。その英語学会が理論を中心とする研究が主体になったこともあり、従来の英語研究の伝統を引き継ぐ媒体として、ちょうど10

年後、英語語法文法学会が誕生いたしました。上に引用した趣意書はそのような文脈のなかで生まれてきたものでした。

その後さらにいろいろな学会が産声をあげましたが、これはいわば「機能分化」の流れと言ってよいかもしれません。近年はより個別理論に沿った分野へとさらに細分化が進んでいるようですが、「地道な研究」はどの場面においても欠くことのできない普遍的な学問探究の原理であり、これなくして研究の進展はお覚束ないことは明らかです。私は、自戒の念を込め、この原点に立ち返って、地道な研究の重要性をまず再確認したいと思います。

もうひとつ、会長として心に留めておきたいことがあります。それは学会の社会への貢献の在り方です。本学会の社会貢献としては毎年8月に開催しております「英語語法文法セミナー」があります。これは英語学・英文法のトピックを新しい角度からわかりやすく解説する、学生、教員向けのプログラムで、今年で8回目を迎えます。これに加えて、学会としてさらなる社会貢献ができる可能性を積極的に探っていきます。

学会の活動はひとえに学会員の皆様の積極的な学問研究にかかっています。今後ともこれまで以上のご理解とご支援をお願い申し上げます。

なお、今年度の大会は設立20年目の記念大会となります。大沼雅彦先生と中右実先生をお招きして特別講演を予定しております。ご期待ください。

## ◆前会長退任挨拶

## ことばの姿を求めて

安井 泉

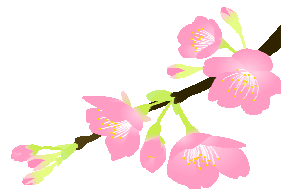
この春、筑波大学を定年退職することになりました。定年まで勤め上げることになった37年の歳月は、私の英語学と言語文化の研究に重なります。その最後の4年間（平成20年より2期）を英語語法文法学会の会長として過ごすことができたのは、なによりも幸運なことでした。私の英語学の興味は、この長い教員生活の中で少しずつ変化していきます。30歳代の頃はアメリカの言語学者ノーム・チョムスキーの統語論の研究に大きな関心を抱いていました。その興味はだんだんと統語論から意味論に傾いていきます。その最大の理由は、統語論の研究に実験室の言語学という感じを強く抱いていたからであろうと思います。実際に使用されている生きたことばの姿から大きく離れているように感じられたのです。生身の人間がことばを使用している、きれいに割り切れないことばの姿こそが追い求めるものでなければならぬと考える契機となったのは、ボリンジャーやハリデーの**ことば**に対する考え方でした。1950年代から次々に提案される言語理論に常にやや距離を取りながら、**ことば**そのものを見つめようとする二人の言語学者のもの見方が、その後の私の研究の姿勢を作っていました。ボリンジャーやハリデーに、チョムスキーの理論や哲学を深く理解していながらもその学派には入らず、**ことば**そのものを見つめる姿勢を見たのです。特に、ボリンジャーの『意味と形』(Meaning and Form, 1977)で主張されている「意味と形とは一対一対応をなす」(One form for one meaning, and one meaning for one form.)、すなわち「形が違えば意味が違ふ、意味が違えば形も違ふ」という考え方は、私の研究の主旋律を奏でるようになりました。英語の表現のバリエーションはなぜどのようにして生まれるのか、表現のバリエーションの意味の違いはどうなっているのか、なぜそのような意味と形の対応となっているのか。その意味と形の対応のメカニズムに図像性という特徴(統語的に近い位置にある要素は意味的にも近い、統語的に遠い位置にある要素は意味的にも遠い、意味的に近い要素は統語的にも近い位置に置くことによって、意味の近さを統語的にも保証する)を発見しました。

意味論の研究は、語用論への引き金となり、意図する意味を的確に言い表すための音調や強勢

は音声学への興味を引き起こしました。その中で、ことばと文化への関心が徐々に大きくなり、私を支える両輪のように感じられるようになってきます。平成5年11月に創設された英語語法文法学会の発展と共に私の中で大きくなってきた語法の研究も、割り切れないことばという思いを確かなものにしていきます。このように関心が膨らんでいく研究は、傍目には、興味が膨らんで拡散していくように見えていたかもしれませんが、私はただすり鉢の壁面を摺り子木のようにぐるぐると回っていただけで、目は常にすり鉢の底をじっと温かい目で見ていたように思います。そのまなざしの先に見ようとしていたのは、ことばの深い理解に裏付けられたことばのほんとうの姿だったように思います。

それでも、ことばの研究に終わりはありません。人間は遠くにあるものはよく見えるのですが、あまりにも近くにあるものはよく見えないという不思議な生き物です。もっとはっきり見えてもよいはずなのに、身近にあることばや身近に感じられる人間自身のことがなかなかよく見えるようにならないのは、この人間の特性が関係しているからかもしれません。

4年間どうもありがとうございました。この4月からは、内田聖二新会長のもとまた新しい学会の 때가紡がれていくこととなります。会員の皆さまのより一層積極的な参加を祈念しております。



## ◆第20回大会開催案内

学会創設20周年を迎える第20回大会は、記念大会として、下記の要領で東大阪市で行われます。

日時：2012年10月13日（土）

会場：近畿大学経営学部（本部キャンパス）

〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

順路：(1) 近鉄大阪線「近鉄長瀬駅」下車、  
徒歩約10分。

(2) 近鉄奈良線「八戸ノ里駅」下車、  
徒歩約20分。

●大阪駅からは、JR大阪環状線外回りに乗車、  
約15分で「JR/近鉄鶴橋駅」。近鉄大阪線に  
乗り換え約10分で「近鉄長瀬駅」。

●京都駅からは、JR京都線「新快速」に乗車  
し、大阪駅でお乗換えください。

詳しい経路に関しては以下のアクセスの案  
内をご参照ください。

<http://www.kindai.ac.jp/access/honbu.html>

記念大会は、例年のシンポジウムにかわり、記念講演会を開催します。講演者は以下の2氏です。ご期待ください。

大沼雅彦氏（大阪市立大学名誉教授）

中右 実氏（筑波大学名誉教授）

## ◆第8回英語語法文法セミナー

標記セミナーが8月6日（月）に大阪梅田の関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されます。詳細は決まり次第、学会のHPおよび雑誌などに掲載する予定です。今年のテーマは、「学習英文法を見直す」（仮題）です。奮ってご参加ください。（必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。）

## ◆第12回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第11回英語語法文法学会賞」（2010年4月1日～2011年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第19回大会総会において安井会長より報告されました。

## ◆第13回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第13回学会賞対象図書のおすすめを依頼いたします。対象図書は2011年4月1日～2012年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いませんので、同封の推薦用紙に

推薦図書、推薦理由を記入の上、faxあるいは郵便で2012年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、推薦の内容をemailで事務局までお知らせください（〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ研究室内 / fax 0742-20-3288 / email: [suga@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:suga@cc.nara-wu.ac.jp)）。なお、毎年のお願いとなりますが、学会会員による出版物のすべてを事務局が把握することは困難です。当該年度に単行本を出版された会員の方は、書名、出版社名等を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

## 英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

4 受賞者に対しては、賞とともに賞金10万円を贈呈する。（関係部分一部抜粋）

## ◆第2回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

第2回「英語語法文法学会奨励賞」の受賞者には下記の会員とその論文が選ばれました。第19回大会（奈良女子大学）で表彰式が行われ、会長より賞状と賞品が贈られました。

北原賢一氏「動詞dieと同族目的語構文」  
（『英語語法文法研究』第18号に掲載）

なお、第3回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

## ◆運営委員の再任

本年3月16日に開催の運営委員会において、2010年4月1日付で就任された以下運営委員の再任（2期目）が承認されました（任期は2014年3月末日まで）。

大竹芳夫（新潟大学）

須賀あゆみ（奈良女子大学）

中澤和夫（青山学院大学）

[50音順。敬称略]

## ◆運営委員、ならびに編集委員の退任

本学会の創設メンバーのお一人でもあり、また会長もお務めにいられた八木克正先生（関西学院大学）が本年3月末日をもって運営委員、ならびに編集委員を退任することとなりました。先生の永年にわたる学会運営に対するご尽力に心より感謝申し上げます。なお、3月16日開催の運営委員会において、八木克正先生が本学会名誉顧問にいられることが満場一致で承認されました。

## ◆第20回大会研究発表者募集

会員の方は、下記の発表応募規定にしたがい、事務局（須賀あゆみ）宛に奮ってご応募下さい。

## ＜研究発表応募規定＞

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内（別に質疑応答が10分）とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内（原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内）にまとめて3部を提出する（コピーで可）。ただし、参考文献表は枚数に含めない。論文冒頭には題名のみを記し、名前・所属は別紙に。
4. 論文題目、氏名（ふりがな）、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 同時に、前項の4と同じ内容と発表要旨のfile（MS WordあるいはPDF）をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「研究発表応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先：suga@cc.nara-wu.ac.jp
6. 応募締め切りは7月25日（水）必着とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局（〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ）宛に送付する。
8. 選考及び研究発表の割り振りは大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨（500字以内）を8月21日（火）までに、予稿集の原稿を9月24日（月）までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

## ◆第20回大会語法ワークショップ発表者募集

第20回大会の「語法ワークショップ」の発表者を

募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートの的なもので結構ですから、会員の方は次の応募規定にしたがい、事務局（須賀あゆみ）宛に奮ってご応募ください。

## ＜語法ワークショップ応募規定＞

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 大会当日の午前10時30分ごろから12時までが割り当てられ、発表時間は一人12分以内（別に質疑応答が5分）とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内（原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内）にまとめて3部を提出する（コピーで可）。ただし、参考文献表は枚数に含めない。論文冒頭には題名のみを記し、名前・所属等は別紙にまとめて書く。
4. 論文題目、氏名（ふりがな）、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 前項の4と同じ内容と発表要旨のfile（MS WordあるいはPDF）をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「語法ワークショップ応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先：suga@cc.nara-wu.ac.jp
6. 応募締め切りは7月25日（水）必着とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局（〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ）宛に送付する。
8. 選考及び発表の割り振りは大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨（500字以内）を8月21日（火）までに、予稿集の原稿を9月24日（月）までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

## 【応募上の注意】

研究発表とワークショップの両方に同時に応募することはできません。

## ◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第19号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法に資する内容のもので未発

表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

なお、最近インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

### <『英語語法文法研究』(第19号)の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(火)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは33文字×30行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは33文字×30行、6枚以内のものとする。
5. 論文・語法ノートはパソコンで、A4用紙にプリントアウトしたものを4部(コピー可)提出すること。また、氏名と略歴(連絡先の住所、電話番号、fax番号、email addressを含む)は、論文とは別紙で付けること。
6. 前項5と同じもののfile (MS WordあるいはPDF)をemailに添付して、大室剛志編集委員長(omuro@lit.nagoya-u.ac.jp)宛に送ること。なお、件名を「投稿」とすること。
7. 入力に関しては、既刊号の論文を参考にし、特に以下の点に留意すること。
  - a. 例文の前後に1行ずつ空白行を設ける。
  - b. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設ける。
  - c. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
  - d. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
  - e. 2桁以上の数字は半角を用いる。
  - f. 小説・論文の出典は下のよう表記する。  
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
8. 注は脚注とする。
9. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。  
Chomsky, N. 1986a. *Barriers*. Cambridge, Mass: MIT Press.  
Chomsky, N. 1986b. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger.  
Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and*

*Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」 衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.

川本一郎. 1975. 「前置詞について」『英語青年』第120巻第5号, 23-26.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

島村礼子. 1990. 『英語の語形成とその生産性』東京: リーベル出版.

10. 氏名と略歴(連絡先の住所、電話番号、fax番号、email addressを含む。なお、「奨励賞」授賞規定に基づき、生年月日を明記する)は、論文とは別紙で付けること。
11. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
12. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
13. 原稿料は支払わない。
14. 送付先: 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学文学部・文学研究科英語学研究室 大室剛志(「投稿論文在中」と朱記のこと)まで。

#### 【応募上の注意】

学会誌への二重投稿、研究発表への二重応募はお控えください。

#### ◆英語語法文法学会第19回大会

英語語法文法学会第19回大会は2011年10月15日(土)、奈良女子大学にて開催されました。活発な議論、討論が行なわれ盛会でした。開催校委員をはじめ、お手伝いいただいた奈良女子大学の教員・院生の方々にお礼を申し上げます。

**ワークショップ** 10.40 - 11.50

(文学系N棟 N202 講義室)

司会 大竹芳夫(新潟大学)

1. 「To blame or To be blamed?」  
辻前正男(京都府立大学大学院)
2. 「もう一つのクジラの公式」  
明日誠一(青山学院大学非常勤)
3. 「I've killed him」とI killed himの含意」  
金子輝美(愛知淑徳大学非常勤)
4. 「「たまたま」とHappen to不定詞」  
田岡育恵(大阪工業大学)

**研究発表** 13.00 - 14.45

## 第1室 (文学系 N 棟 N202 講義室)

司会 松村瑞子 (九州大学)

1. 「必要性と重要性を表す形容詞と前置詞の選択について—necessary と important を中心に—」  
松井 涼 (関西学院大学大学院)
2. 「副詞節が名詞句を修飾するとき—構文と類推の観点から—」 金谷 優 (神田外語大学)
3. 「最上級形容詞を伴う among の機能について—have among the Adj-est Ns を中心に—」  
藤川勝也 (大阪市立大学非常勤)  
五十嵐海理 (龍谷大学)

## 第2室 (文学系 N 棟 N302 講義室)

司会 梅咲敦子 (関西学院大学)

1. 「語彙と構文の合成による意味の創発—take の項はなぜ双方向に移動できるのか?—」  
井口智彰 (広島大学大学院)
2. 「推量を表す will と must における「時」と意味論的特徴の違い」  
小澤賢司 (日本大学大学院)
3. 「Walk one's way にみられる意味的特徴について」  
金澤俊吾 (高知県立大学)

**シンポジウム** 15.35 - 17.45

(文学系 S 棟 大講義室)

## テーマ

「日英語の比較—話法あるいは引用をめぐる—」

司会 内田聖二 (奈良女子大学)

1. 「話法研究としみわたれの原理—前提を減らして眺める引用表現の姿—」  
山口治彦 (神戸市外国語大学)
2. 「公的表現・私的表現と日英語の話法」  
廣瀬幸生 (筑波大学)
3. 「メタ表象からみた引用」  
内田聖二 (奈良女子大学)

**懇親親会** 18.00 - 19.30

会場: ラウンジ (文学系 S 棟 1 階)

## ◆新入会員紹介

有路隆志 (浦和実業高等学校)  
井口智彰 (広島大学大学院)  
勝部愛美 (大妻女子大学大学院)  
鎌倉義士 (愛知大学)  
今野昌俊 (東北大学大学院)  
辻前正男 (京都府立大学大学院)  
野中大輔 (慶應義塾大学大学院)  
濱松純司 (専修大学)  
平井大輔 (近畿大学)  
松井 涼 (関西学院大学大学院)

松山哲也 (和歌山大学)

吉川 洋 (兵庫県立大学)

[50音順。敬称略]

## ◆年会費納入のお願い

2012年度 (2012年4月~2013年3月) 会費4,000円を同封の振替用紙でお支払いください。申し訳ありませんが、振替手数料は各自ご負担ください (郵便振替料金は120円 (ATMからは80円) です)。金額欄が8,000円になっている方は、昨年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効します。

住所・所属に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。また、大会案内や機関誌等の送付には (経費節約のため) 民間のメール便を利用しておりますが、この場合、転居先までの追跡送付ができません。発行物送付の遅延にもつながりますので、年度途中で住所変更された場合には、すみやかに新住所を事務局 (会計・会員名簿管理担当: 大竹芳夫 (otakeyo@econ.niigata-u.ac.jp)) までお知らせいただけますようお願い申し上げます。なお、会計・会員名簿管理担当者の交代により email address が変更となっておりますのでお気をつけください。

## ◆新刊書紹介

事務局にお知らせいただいた会員の刊行物を逐次紹介いたしますので、事務局宛お知らせください。  
(出版月順、出版時期が同じ場合は著者の50音順)

高橋勝忠 2011年3月 『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』 東京: 現代図書  
八木克正 2011年5月 『英語の疑問 新解決法 伝統文法と言語理論を統合して』 東京: 三省堂  
澤田治美 (編) 2011年6月 『主観性と主体性』 (ひつじ意味論講座 第5巻) 東京: ひつじ書房  
田中 実 (監修) 2011年6月 『小学館 オックスフォード 英語類語辞典』 東京: 小学館  
安藤貞雄 (編) 2011年7月 『三省堂 英語イディオム・句動詞大辞典』 東京: 三省堂  
内田聖二 2011年7月 『語用論の射程 語から談話・テキストへ』 東京: 研究社  
八木克正 2011年10月 『英語教育に役立つ 英語の基礎知識Q & A』 東京: 開拓社  
菅山謙正 (編) 2011年11月 *Kyoto Working Papers in English and General Linguistics*. 東京: 開拓社  
土屋知洋 2012年2月 *A Semantic-Syntactic Study on the Differences between the That-Complement and the Zero That-Complement*. 東京: 開拓社

## 編集後記

2008年に静岡県立大学で開催された第16回大会から数え、奈良女子大学で開催された昨秋の第19回大会までの4年間、事務局を(なんとか)切り盛りしてまいりました。安井 泉先生の会長就任に伴ない、事務局も関西から関東へと移りました。事務局長の職を仰せつかった時には、身に余る任への感謝の気持ちと、その重責に対する不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、幸運なことに、安井 泉会長をはじめ運営委員の諸先生方のご指導のもと、そして会計・会員名簿担当の中山 仁先生には肝心要となる会計その他の実務に縁の下から支えていただき、そしてさらには、会員の皆様のご理解ご協力をおもちまして、長いようで短い4年間を無事終えることができました。関係の皆様にはこの場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

この4月からは、内田聖二新会長の体制のもと、事務局も本学会創設の地である関西に戻り、奈良女子大学の須賀あゆみ研究室に移転いたします。事務局として私がかかわった最後の大会が、奇しくも、新事務局が置かれる奈良女子大学での開催でした。そこでの大会運営は、内田聖二先生、そして新事務局長となられる須賀あゆみ先生のもと、完璧なまでの大会運営を見ることができました。新事務局への最高のかたちでのバトンタッチができました。私は、ここで事務局は離れますが、これまでと同様、微力ながらも学会運営に携わっていく所存です。

最後に、改めまして、この4年間の会員の皆様のご指導ご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。  
(平成24年3月16日、吉良文孝)